

## 平成28年度 宅地建物取引士資格試験

### ★★試験概要と合格ライン予想★★

#### <1> 申込者数・受験者数等の推移

試験年度	申込者数	受験者数	合格者数(率)	合格基準点
平成26年	238,343人	192,029人	33,670人(17.5%)	32点
平成27年	243,199人	194,926人	30,028人(15.4%)	31点
平成28年	245,742人	198,375人(速報値)	?	?

#### <2> 試験問題の講評

★試験問題の難易度は、『昨年より、易しめ』と思われます。		
科目	合格目標点	科目別の講評
権利関係 問1～問14：14問	8点	正解肢を導きやすい問題が比較的多かったため、8点が目標点となる。「問6(売主の担保責任)・「問8(転貸借)・「問10(相続)・「問11(借地)」等の問題は確実に得点したい。
法令上の制限 問15～問22：8問	5～6点	「問16(都市計画法)・「問19(建築基準法)」は正解を出すのが困難であったため、失点したとしても合否に影響はないと考えられる。「問17(都市計画法)・「問20(宅地造成等規制法)」等の問題でしっかりと得点できるかが合否の分かれ目となる。
税金・価格評定 問23～問25：3問	2点	「問25(鑑定評価)」は正解を出すのが困難であったため、失点したとしても合否に影響はないと考えられる。税金は、基本知識を問う問題であったため、確実に得点したいところである。
宅建業法 問26～問45：20問	16点	正解を出すのが困難な個数問題(「問36(重要事項の説明)・「問37(複合問題)」)もあったが、16点は得点したい問題である。「問33(報酬)・「問38(取引士)」等の問題でしっかりと得点できるかが合否の分かれ目となる。
<登録講習修了者 免除項目> 諸法令・統計等 問46～問50：5問	4点	「問46(支援機構)」は、やや正解が出しづらい問題であったと思われる。近年、この5問は正解率が高く、4点は取りたいところである。

#### <3> 合格ライン予想 (登録講習修了者の方は、問1～問45のご自身の得点に「+5点」で、ご覧ください。)

36点以上	合格の可能性が高いと思われます。
35点	合格ライン上にあるものと予想します。但し、現時点では合否の判定ができませんので、合格発表をお待ちください。

※合格発表日：11月30日(水)ー合格者には、11月30日発送の郵便で、合格証書が送付されます。

なお、11月30日午前9:30より、不動産適正取引推進機構ホームページ (<http://www.retio.or.jp>)にて、「合格者の受験番号」・「合否判定基準」・「問題の正解番号」が掲載されます。

※試験問題の講評・合格ライン予想は、10月20日現在の大原独自の見解で作成/提供しており、11月30日に公表される実際の結果と異なる場合がございます。また、試験問題の講評・合格ライン予想の根拠等につきましては、電話等でのお問い合わせは受け付けておりませんので、あらかじめご了承ください。無断複写・複製を禁じます。